

キャラクター名  
緑谷 俊介

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ		ワークス	暗殺者	カヴァー	ドライバー
	モルフェウス					
オプション	年齢		26	性別	男	
覚醒	感染	衝動	解放	初期侵食率	32 %	
出自	貧乏	経験	大失敗	邂逅	速さ	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	23
肉体	1	0	0			1	行動値	18
感覚	5	1	0			6	(非装備時)	18
精神	1	0	0			1	戦闘移動	23
社会	1	0	0			1	全力移動	46

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	2		RC			交渉		
回避			知覚			意志	2		調達	6	
運転:	2		芸術:			知識: 車	2		情報:裏社会	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ショットガン	射撃	8r+1		5 (7)		同インゲだと+2
100以上	射撃	9r+1		21 (23)		同インゲだと+2
ガード		0	8+5			+装甲値13+ (8)
最大ガード		0	13			+装甲値13+ (8) と不壊の城壁で+40軽減 シナ1

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
UGNボディーマー (未常備化)		8			購入できたらいいな (願望)
フォールンシールド					ガード値8 侵食+1してさらに+5
合計装甲:		8	合計回避:		0

所持品	
ショットガン	
ウェポンケース	
思い出の一品	
コネ:要人への貸し	
コネ:情報屋	
コネ:手配師	
エンブレム:デリバリー	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
秘密兵器:フォールンヴィークル	P	N		
オレンジ髪で紫のサングラスの男	P	N	敵愾心	
借金	P	N	脅威	
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 14 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2						
効果: 天からの眼								
1	2	メジャー				対決		
効果: ダイス+lv個								
イエーガーマイスター	3	4	メジャー			対決	80	
効果: 射撃の攻撃力+LV×4 自分のドッジのダイス-3								
砂の結界	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果: カバーリング								
ミスディレクション	1	5	オート	視界	単体	自動		
効果: 範囲攻撃の対象を単体に LV回								
不壊の城壁	3	1D10	オート	至近	範囲 (選択)	自動	100	
効果: ダメージ-LV×10 シナリオ1								
折り畳み	★		メジャー					
効果: LV個のアイテムを隠し持つ 知覚								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

日境市の片隅で個人運送業を営む20代の男。ある時はタクシードライバーであり、ある時はトラック運転手、またある時は宅配業者となる。各地を走り回る一方で、裏社会と繋がるフリーランスというもう一つの顔を持つ。

コードネーム:《タクシードライバー・ブラインドネス》。自らチューンアップしたヴィークルを駆るフリーのオーヴァードである。愛車はトレノ86 (頭文字Dの豆腐屋カー)。魔改造により既に普通自動車の域を超えたモンスターマシンと化している。でも車検は普通に通る。本来は輸送や護送を専門に請け負う仕事屋なのだが、最近はその限らず様々な依頼を引き受けている。何でも莫大な借金を抱えており、その返済に追われているとか。愛車の改造費用のためではない…たぶん。

本人の特徴としては、長身を低く見せるひどい猫背、ハイライトのない瞳など、無気力な印象が目立つ一方で、口調は全体的に軽薄。戦い方の基本はエンハイの視覚強化による射撃。車両の機動性と防御力を利用して車中から攻撃する。手放し運転よくない。

※余談 唯一、紫のサングラスをかけたオレンジ髪の男にだけ峠のレースで負けたことがある。別にスピード狂ではないのだが、それ以来何か釈然としない思いを抱いており、心のどこかで再戦を望んでいる。「車を壊さねえつらルールなら勝ってましたよ」